

特別企画

「アイルランド チェスター・ビーティー・コレクション
絵巻と絵本のたからばこ」

A Treasure Trove from Ireland: Japanese Picture Scrolls and Books from the Chester Beatty Collection

アイルランドより、物語絵の至宝が38年ぶりに里帰り

ヨーロッパの北西部に位置するアイルランドの首都ダブリンには、チェスター・ビーティーという文化施設があります。ここには、アメリカの鉱山開発で成功し、世界の様々な美術作品を収集したアルフレッド・チェスター・ビーティー卿(1875-1968)のコレクションが収蔵されています。ビーティー卿は1917年に日本を訪れており、特に日本の物語絵については、ヨーロッパ随一のコレクションです。本展は、これらチェスター・ビーティー・コレクションのなかから、アイルランド外ではなかなか見ることのできない選りすぐりの日本の物語絵25件をご紹介します。

チェスター・ビーティー・コレクションは、1988年から翌年にかけて、東京、神戸、名古屋で展覧されました。また、同コレクションの至宝ともいえる、玄宗皇帝と楊貴妃の悲恋を描いた狩野山雪筆「長恨歌絵巻」は「在外日本古美術品保存修復協力事業」によって修理された作品です。このように、日本とアイルランドは美術を通じた交流をこれまでも続けてきました。2025年には日本とアイルランドの外交、経済、文化の交流拠点であるアイルランド・ハウスが開設され、両国の文化交流はますます盛んになっていくことが期待されます。この機会に、美術がつなぐ日本とアイルランドの友好関係にも思いを馳せていただけたら幸いです。

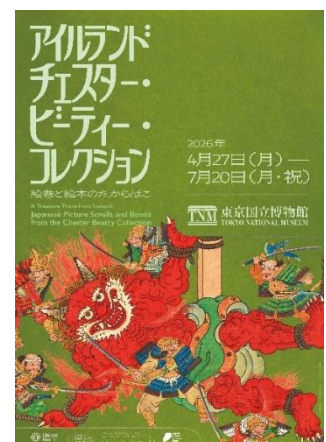


9.チェスター・ビーティー卿

【開催概要】

- 会期：2026年4月27日（月）～7月20日（月・祝）
※会期中、一部展示替えがあります
- 会場：東京国立博物館 本館
- 開館時間：9時30分～17時 金曜・土曜、5月3日（日）～
5月5日（火・祝）、7月19日（日）は20時まで開館
※入館は閉館30分前まで
- 休館日：月曜日 ただし、4月27日（月）、5月4日（月・祝）は開館
- 主催：東京国立博物館、チェスター・ビーティー
- 協力：アイルランド文化・通信・スポーツ省
- 後援：独立行政法人 日本芸術文化振興会
- 観覧料：本展は東博コレクション展観覧料でご覧いただけます。
[一般] 1,000円 [大学生] 500円
高校生以下および満18歳未満、満70歳以上の方、障がい者とその介護者各1名は無料
- 公式ウェブページ：<https://www.tnm.jp/>
- お問い合わせ：050-5541-8600（ハローダイヤル）

※本展に出品される作品はすべてチェスター・ビーティー所蔵です。



8.本展メインビジュアル

【展示の概要とみどころ】

この展示は、チェスター・ビーティーが所蔵する絵巻や絵本を、日本の物語に関する6つのテーマごとにご紹介します。同館珠玉の名品「長恨歌絵巻」をはじめ、おなじみの昔話を描いた絵本などの物語絵を、様々な角度から楽しんでいただける内容です。（以下、作品画像はすべて部分。）

画像：Images courtesy of the Trustees of the Chester Beatty Library, Dublin.

チェスター・ビーティーの至宝 狩野山雪筆「長恨歌絵巻」



1. 狩野山雪筆 長恨歌絵巻 巻上 江戸時代・17世紀（4月27日～6月7日展示）

数あるチェスター・ビーティーの絵巻・絵本の中で、最も著名な作品。玄宗皇帝と楊貴妃の悲恋を、上質の絵の具を惜しげもなく用いて描いた豪華な絵巻で、1954年、ビーティー卿がロンドンで購入した記録が残されている。筆者の狩野山雪（1590-1651）は江戸時代前期に京都で活躍した絵師である。

王朝貴族のラブロマンス

王朝物語は、天皇や貴族を主人公として、和歌の贈答を踏まえた恋愛模様がストーリーの軸となっている。その発展には、平安時代における仮名の成立が大きく寄与しており、以後の日本文学、美術に多大な影響を与えた。チェスター・ビーティー所蔵の王朝物語絵は、著名な物語を網羅するとともに、質・量ともに極めて充実したコレクションとして名高い。



2. 源氏物語絵巻 巻一 江戸時代・元禄元年（1688）頃

『源氏物語』54帖の詞と絵を収めた大型の絵巻で、金砂子をふんだんに散らした画面に、各帖の場面が鮮やかに描かれている。詞書は能書27名の手によるもので、霊元天皇（1654-1732）と縁の深い貴頭が名を連ねることから、この絵巻がきわめて格式高い場で制作され、愛好されたことがうかがえる。

過去の物語に学ぶ

チェスター・ビーティーは、日本では類例の確認されていない説話絵巻や軍記絵巻を多く所蔵している。日本の物語絵のなかでも、説話や軍記に取材した作品はとて多く、平安時代末以降、それらはしばしば絵画化された。説話や軍記を視覚化したメディアは、過去に学び、その教訓を今に活かす上で、大きな役割を果たしていたのである。



源義経に仕えた武蔵坊弁慶の物語。弁慶は顔を浅黒く、義経は白く塗り、二人は一目で分かるように描かれている。人物や景観描写も丁寧になされており、室町時代末期の制作と考えられる。義経物の流行に伴って制作された作品である。

3.武蔵坊縁起絵巻 巻中 室町時代・16世紀

異類に出会い、異界をめぐる

御伽草子は、室町時代後期以降に成立した短編の物語のことである。浦島太郎やものぐさ太郎など庶民が主人公のお話も多く、なかでも動物や鬼などの異類と交流し、地獄や外国などの異界を往来するなど、奇想天外なストーリーが好まれた。アイルランドは、動物、聖人、妖精などが登場する神話でも知られ、チェスター・ビーティー卿が日本の異類・異界の物語絵に興味を持ったのも、彼のルーツからかもしれない。



平安時代の武将・源頼光が、その臣下を従え、酒吞童子と呼ばれる鬼を退治するというお話。チェスター・ビーティー所蔵の作品は、繰り返し描き継がれてきたお馴染みの物語を、型にはまらない独創的な表現で描いている。

4.酒吞童子絵巻 巻下 江戸時代・17世紀

芸能のイメージ

室町時代以降、幸若曲舞や古浄瑠璃といった新たな芸能が誕生し愛好された。これらは語り物と呼ばれ、物語に節をつけて読み上げ、音楽を伴って舞う芸能である。中世後期に誕生、流行したこれらの芸能は、この時代に語られている物語内容そのものが好んで絵画化された。芸能の場で語られる物語を視覚化することで、その世界観をリアルに想起させ、さらにその物語世界に引き込むような絵画が描かれたのである。

チェスター・ビーティーは、「義経地獄破り」「松村物語絵巻」をはじめ、幸若曲舞や古浄瑠璃にかかわる優れた絵画コレクションで知られている。



5.義経地獄破り 巻上 江戸時代・17世紀

修羅道に堕ち、苦しみを受ける源義経主従が地獄を征服するが、日に三度身を焼く苦を受けたため、閻魔王の教えにより阿弥陀如来にすがったところ極楽往生したという物語。閻魔王は明らかに天皇という存在をなぞらえており、義経には天皇に奉仕する理想の武士像が重ねられている。当時の天皇と武家のあいだに生じていたせめぎ合いの様子が映し出された作品である。



6.伝岩佐又兵衛筆 村松物語絵巻 巻一 江戸時代・17世紀
(会期中場面替えがあります)

相模の国司となった中納言兼家は、地元の豪族村松氏の姫を妻とするが、国司の任期が過ぎても帰京しないため帝の怒りに触れ、隠岐に流される。この間、村松一族は姫に横恋慕した曾我四郎に襲われ、姫は息子を連れて流浪し、奥州で下仕えを強いられる。山王権現の導きで赦免された兼家は姫と息子を探し出し、曾我四郎を滅ぼすという復讐譚。岩佐又兵衛工房で制作された絵巻群の一つと考えられ、海の見える杜美術館にチェスター・ビーティー本と一連の十二巻が所蔵されている。

人と自然を愛でる

日本の絵巻・絵本の中には、一見して物語を描いていないように見えながらも、その表現の向こう側に豊かな物語世界が広がっている作品も多い。春夏秋冬、あるいは月ごとに移ろう自然の姿とそれに伴う人びとの姿に心動かされることで和歌が詠まれ、そこから様々な絵画が誕生してきたのである。



7.伊藤若冲筆 乗興舟 江戸時代・明和4年(1767)頃

若冲が相国寺の禅僧とともに京都から大坂まで淀川下りをした経験をもとに制作された版画巻。

たくほんが拓版画と呼ばれる技法を用いたどこか幻想的な画面は、観る者を異次元に誘うかのような趣を漂わせている。

「乗興舟」は、作品ごとに彫や摺に微妙な差異がある。チェスター・ビーティー本は紙継ぎ周辺の処理や文字の位置などが改良され、若冲の目指した完成形に近づいた段階の摺ではないだろうか。さらに原題箋が遺る点でも、貴重な作例といえる。

【チェスター・ビーティーについて】



10.チェスター・ビーティー外観

アイルランドの首都・ダブリンの中心地にある国立の文化施設。ニューヨーク出身のアイルランド系実業家チェスター・ビーティー卿が世界から集めた文化財 2 万 5 千点余のコレクションを所蔵する。もともとは彼の私設図書館として設立され、その後展示ギャラリーを加えて美術館としての機能も備えるようになった。2005 年に現在あるダブリン城の敷地内に移設となり、一層「世界の窓」としての性格を強めた。

ヨーロッパ、中東、北アフリカ、アジアの多岐にわたる地域の写本や稀観本^{きこうほん}など貴重な文化財を所蔵し、これらのコレクションを通じて、世界文化の理解促進と普及につとめている。

日本の美術品は合計 1,900 点余りで、今回展示される絵本や絵巻のほか、江戸時代の摺物や印籠・根付なども所蔵、ヨーロッパにおける日本文化研究・普及の拠点として一役買っている。

【本件に関するお問合せ】

「チェスター・ビーティー」展広報事務局（共同 PR 内）担当；三井
E-mail：chester-beatty-col-pr@kyodo-pr.co.jp / TEL: 03-6264-2382
〒104-0045 東京都中央区築地 1-13-1 銀座松竹スクエア 10F